

大人の教会学校 2020年6月

「永遠のいのちを信じます」 (「カトリック教会のカテキズム」307～313頁参照)

### 私審判

各自が死の直後にそれぞれのわざと信仰に応じて受ける報い・裁き

金持ちとラザロ (ルカ・～) 十字架上の盗賊 (ルカ・～)

人は死んだらすぐ人生におけるキリストとのかかわり合いについての私審判の結果に基づき、その不滅の霊魂において永遠の報いを受けます。それは、清めを経た上で天の至福に入るか、あるいは直接に天の至福に入るか、あるいは直ちに永遠の苦しみを受けるかの、いずれかです。

### 天国

神の恵みと神との親しい愛のうちに死に、完全に清められた人々は、キリストとともに永遠に生き、神に似た者となります。神を「ありのままに」(1ヨハネ・)、  
「顔と顔を合わせて」(1コリント・)見るからです。

### 最終の清め・煉獄

神の恵みと神との親しい交わりとを保っていながら、完全に清められないままで死ぬ人々は、永遠の救いこそ保証されているものの、死後、天国の喜びにあずかるために必要な聖性を得るよう、ある浄化の苦しみを受けます。

### 地獄

人間は自由意志をもって神を愛することを選ばない限り、神に結ばれることはできません。神に対し、隣人に対し、あるいは自分自身に対して、愛の業を行わなければ、神を愛することはできません。痛悔もせず、神の慈愛を受け入れないまま死ぬことは、自分自身の自由な選択によって永遠に神から離れることを意味します。自ら神と至福者たちとの交わりから決定的に離れ去った状態を、「地獄」ということばで表現するのです。

### 公審判・最後の審判

最後の審判は、キリストの栄光の再臨の時に行われます。その時、神は、御子イエスを通して、創造のすべてのわざと、救いの計画のすべての究極の意味を明らかにし、全歴史に対する決定的な神の栄光と支配の実現、「神の国」を完成します。

最後の審判の前に、すべての死者が復活します。その時、一人ひとりがそれぞれの生涯で行ったよいこと、怠ったこと、またその最終的結果までが明らかにされます。

※「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3・16)